農 大 だ よ り

令和元年12月号　No. 81
編集発行：愛知県立農業大学校

農大祭２０１９を開催しました

「農大祭２０１９」を、12月７日(土)午前10時から午後２時まで農業大学校において開催しました。この日に向けて、出荷の調整や会場準備を行ってきましたが、数日前には雨という予報もあり、学生及び職員の皆がやきもきしていました。

［10時前から行列が･･･。ありがとうございました！］

当日は、雨は降らなかったものの日差しが無く、岡崎のアメダス（本校内に設置）の最高気温が7.2℃と冷え込みましたが、寒さにもかかわらず、約2,500名(推定）と多くの方に来場いただきました。

学生が丹精込めて育てた各専攻の農畜産物の直売ブースは毎年大変好評で、今年も体育館で販売の鉢物・緑花木専攻のシクラメンやコチョウラン等を目当てに、午前８時45分の整理券配布には、既に長い行列ができていました。また、養豚・養鶏専攻の卵や露地野菜専攻のハクサイ、キャベツ等販売ブースでも多くの方が販売時間前から並ばれていました。

［鉢物・緑花木(左)と露地野菜(右)の販売ブース］

また、食品バザーのブースでも、農大生手作りのうどん、五平餅、フランクフルト等を買い求める方の列ができていました。

［キャンパスツアー(左)と作物専攻恒例の五平餅(左)］

午前・午後２回実施した農大キャンパスツアーには、合計で121名の参加者があり普段は入ることができないほ場を巡って、農大への理解を深めていただくことができたのではないでしょうか。アンケートでも「面白かった。」「興味深かった。」といった感想を多くいただきました。

［茶道部による農大茶席］

さらには、茶道部による農大茶席、環境クラフト教室､みあい特別支援学校の児童、生徒の作品展示、後援会や協賛団体提供商品の販売、協賛団体・企業等の出店ブースにも多くの方に訪れていただき、来場者の皆さんそれぞれが、両手いっぱいの荷物と笑顔あふれる大盛況の農大祭となりました。

（学務科　伊藤正美）

本年度の入学試験の状況について

令和元年12月19日（木）に一般一次入学試験の合格発表を行い、39名が合格しました。先に実施した推薦入学試験の合格者67名と合わせて106名の合格者となりました。

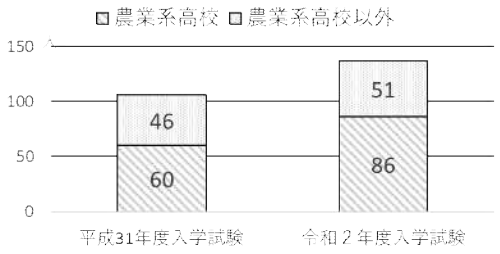
本年度実施した入学試験には、農業系高校から86名、普通科、商業科、工業科、総合学科等、農業系以外の高校から48名、現役大学生や社会人経験者など現役高校生以外も含め過去最高の140名が応募しました。

応募者の特徴として、専業・兼業農家の子弟が26％で、特に、切花農家や露地野菜農家、施設野菜農家の子弟から多くの応募がありました。非農家出身の受験生の中には、これから農大で知識や技術、経営学を学び地域の農業を活性化したい等、農業に対する様々な思いや夢を抱いている人が大勢いたことも特徴の一つでした。

また、オープンキャンパスや緑の学園研修に参加した受験生が全体の85%を占めていました。高校在学中から農業大学校の教育設備や教育内容（専攻実習等）を知り、農業に対する思いや学ぶ意欲を持った生徒が数多く受験する傾向があるようです。緑の学園研修での作業体験等を通して、農大の魅力に直接接することで、入学後の不安も解消されるのではないかと思います。

来年度もオープンキャンパス等を実施しますので、本校に興味のある方はぜひ参加していただきたいと思います。

なお、本年度は、「畜産課程　養豚・養鶏専攻」で一般入学二次試験を実施します。詳しくは、本校ホームページを御覧ください。　　（学務課　鈴木　聡）



入学試験受験者数の比較

「意見発表会」を開催しました

農学科の令和元年度意見発表会を、11月19日（火）に開催しました。

各専攻から１名ずつ選抜された１年生８名が、全学生や職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域の農村環境、就農等について、また、自らの学生生活を通じて日頃考えていることや思い等についての意見を発表しました。

どの発表者も、発表内容はもちろん、発表時間や発表態度等まで、事前に専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。

当日はその成果を十分発揮して、農業経営への夢や後継者としての心構え、今後の農業のあるべき姿、将来設計等を熱意を持って語り、印象深い発表内容となりました。

校長を委員長とした４名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「我が家のトマトを世界へ」を発表した施設野菜専攻の森下響君、優秀賞は「家畜の幸せを求めて・・・」を発表した養豚・養鶏専攻の諏訪江厘さんと「父の背を追いかけて」を発表した酪農専攻の竹内凌君がそれぞれ受賞し、校長から賞状ならびに副賞（後援会からの支援）を授与されました。

［喜びの受賞者と校長(左から諏訪さん、竹内君、校長、森下君)］

最優秀賞の森下君は、令和２年１月16、17日に滋賀県で開催される「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会」に本校代表として参加しますが、さらにその先の全国大会（２月に東京で開催予定）への出場も目指します。　　（農学科　野田　輝夫）

ＯＢからのアドバイス
八木社長が語る「現場が求める人材は」

農学科１年生を対象とした第３回進路セミナーを、12月13日(金)に開催しました。

水稲作及び畜産関連の法人経営を中心に求人が増加しているなか、本校ＯＢである有限会社鍋八農産の八木輝治社長を講師にお迎えして、農業現場で求められる人材像について講義をしていただきました。

社員14名（うち農大卒業生５名）で、経営規模は水稲145ha、麦45ha、大豆15ha。生産物全量を自社販売する方針のもと、「ワンチームで団結して経営している。」と自社を紹介されました。

八木社長は、農業に限らず「価値観の異なる社員が集まる職場では、各自が意見を発言しないことには何もわからない。そのため、コミュニケーション能力は非常に大切である。」と述べられました。

また、当たり前の農作業に対して、異業種の人は、先入観に捉われないため問題が把握でき、意見として発言したことで改善が図られた事例を用いて、「より良くするには、こう変えていこう」と言える人になってほしいとも発言されました。

［講師の八木社長と真剣に聴講する学生たち］

「言われたことしかやらない人間は、ミスに気が付かない。」ことから、自らが計画を立て目標を持って取り組むことが重要であること、社員の意見に基づいてみんなで決めたカイゼンは、全社員が守っていることなど、第一線で活躍する農業経営者からの言葉に、学生たちも発展する農業経営の実態が十分に理解できたと思われます。

最後に八木社長は、「農大で今日話ができるのも、人材が育っているから。自分が居なくても全部安心して任せておける。」と講義を結ばれました。

学生たちが卒業後に自ら設定した目標を達成できるよう、八木社長からのアドバイスが活かされることを期待したいと思います。　　（農学科　横井　信之）

農業者生涯教育研修
モモ・ナシの急性枯死症状の対策を学ぶ！

モモの急性枯死症状やナシのさび色胴枯病は古くから知られている障害で、近年発生が増加しています。これらの現状と対策についての生産高度化研修を、愛知県果樹振興会と共催により12月17日(火)に開催し、119名が参加しました。

［講師２名に対して、熱心に交わされた質疑応答］

はじめに、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　果樹茶業研究部門の藤川上級研究員から発生生態と現状の対策について、これまでの知見に基づき講演をいただきました。果樹急性枯死症状は、地温上昇や樹に対するストレス等が誘因となって、病原体が存在することで発病に至ること、有効な薬剤がないため現状の対策は園地の排水性改善など物理的な防除が妥当であることを説明されました。

次に、農業総合試験場の永井主任専門員

から、愛知県内の発生場所は「川に近く」「山つきで日陰になりやすい場所」「園地が周りより低地」等の特徴が説明されました。その上で今後の研究により、発症樹の対処法や排水改善の対策等を明らかにすることが重要と発言されました。

受講者から、喫緊の病害虫防除を中心に、排水、土壌、改植、夏季剪定、ハチが病気を媒介する可能性等、モモ・ナシに関する様々な質疑が交わされ、難防除である急性枯死症状に対する関心の高さがうかがわれました。また、研修後のアンケート結果では参加者の84%が参考になったと回答しており、有意義な研修となりました。

（就農支援科　野村　芳江）

「新しいミネアサヒ」の特徴等を学ぶ！

良食味米生産の取組についての生産高度化研修を12月18日（水）に開催し、中山間地域の生産者を中心に48名の参加者がありました。

近年、愛知県では水稲の夏期における高温障害による品質低下が問題となっております。そこで、三重県農業研究所農産研究課の山川智大氏を講師にお招きし、高温障害に強い良食味米生産の先進事例である三重県の取組について御講演をいただきました。三重県では、高温障害に強い良食味米品種である「三重23号」のうち、一定基準を満たした米を「結びの神」というブランド名で販売しているとのことです。

また、令和２年度から種子の供給が始まる新品種「中部138号」の特徴について、農業総合試験場山間農業研究所の吉田朋史主任研究員から講演がありました。現在、中山間地域で生産されている「ミネアサヒ」は、食味に優れている反面、イネいもち病、イネ縞葉枯病に弱いという課題があります。「中部138号」は、食味、収穫時期をはじめ、ほとんどの形質が「ミネアサヒ」と同等であることに加え、イネいもち病、イネ縞葉枯病に強いことが報告されました。

令和３年度からこの「中部138号」を、「ミネアサヒ」として流通させる予定とのことです。また、「ミネアサヒ」のブランドを維持するため、栽培地域の拡大は行わない、多肥栽培は行わない等の注意点についての説明がありました。

［イモチ病の発生状況　左：中部138号　右：ﾐﾈｱｻﾋ］
（農業総合試験場ホームページ　2017年の十大成果より引用）

総合質疑では、ミネアサヒ栽培における課題を中心に、活発な質疑応答が行われました。また、「ミネアサヒの栽培技術について、もっとオープンにして、研修会を実施してほしい。」との要望も上がり、生産者の意識、栽培意欲の高さを感じる研修会となりました。（就農支援科　石本　聖絵）

今年は豊作！
雇用創出農業研修生がジネンジョを販売

本校研修部では、平成14年度から、新規就農希望者向けの職業訓練として「雇用創出農業研修」を実施しております。

実習を中心に露地野菜栽培を学び、収穫した農作物は、市場や本校の実習販売で販売しております。実習のひとつとして、中山間地特産野菜であるジネンジョを毎年栽培しており、何人ものジネンジョ生産者がこの研修から巣立っております。

［笑顔がはじける収穫風景］

ジネンジョは、研修開始当初に定植し、11月下旬に収穫しました。

今年は、例年以上の豊作で、１メートル以上のジネンジョをたくさん収穫することができました。研修生・職員とも時間を忘れて、夢中になってジネンジョの収穫を行いました。

［とってもお買い得!!　農大産のジネンジョ］

収穫したジネンジョは、12月４日(水)に農大体育館で実施した実習販売で販売しました。「久々にジネンジョ販売があって、待った甲斐があった」等、多くの来場者に喜んでいただくことができました。

また、販売を担当した研修生も充実した表情で、「初めてジネンジョ販売を行い、顧客から評価を聞くことができた。」との感想がありました。

これからも、実習および販売で得られた学びを活かして、研修生が修了後に活躍することを期待し、日々の研修の充実を図っていきます。（就農支援科　石本　聖絵）

県民公開講座
家庭で栽培する果樹剪定の基本

「家庭で栽培する果樹剪定の基本」をテーマに、一般県民の方々を対象とした講座を12月13日(金)に開催し、35名の参加がありました。

講師は、元農業大学校職員で、現在は愛知経済連の技術主管として県内の果樹農家を指導している都築壽男氏にお願いしました。

講義では、家庭果樹の苗木の選び方、剪定の方法について、イメージ図を描きながら講話いただきました。

［講師の実演を熱心に見入る受講者の皆さん］

講師による模範実技では、カキを中心に、講義で説明した剪定ポイントを実演しながら、復習しました。残す枝の決め方、剪定のコツなどをウメの剪定でも実施し、丁寧に御指導いただきました。

また「知ってほしい愛知県の農業」と題し、研修部就農支援科長から、愛知県は農業も盛んで、特に花きの産出額が全国１位であること等、地域の農業への理解を促す講話も行いました。

研修後に実施したアンケートから、90％以上の参加者が参考になったと評価し、「具体的な内容で、分かりやすい説明で良かった。」「もっと長い時間やってほしかった。」等の声があり、大変好評でした。

（就農支援科　河野真砂子）

いずれも目を引く作品ぞろい
−みあい特別支援学校　農大祭に初参加−

本年の農大祭では、初めての試みとして、本校に隣接する「愛知県立みあい特別支援学校（以下、特別支援学校）」の児童、生徒さんたちが美術や作業学習などで制作した手づくりの作品の数々を、中央教育棟１

階ホールに展示していただきました。

これまでにも、特別支援学校とは児童・生徒さんたちの農大校内の見学受け入れや、鶏卵など農大生産物の訪問販売等の交流がありましたが、今回は本校からの展示依頼に対して、支援学校が快く応えていただいたことで実現しました。

［教育棟ホールに展示された作品たち］

布目を慎重にかぞえ、色目を考えて刺繍した布を飾り付けた世界にひとつだけの「ししゅうフレーム」、地元のワラを使い本数を７の倍数にこだわった「みあいのしめ縄」、洗剤いらずの「アクリルたわし」（以上作業製品）や、何これっ？と思わず目を引く「粘土かいじゅう」（美術作品）など、紹介しきれないほど多くの逸品、力作が勢揃いしました。どの品も生徒さんたちが一生懸命に作った様子が目に浮かぶものばかりで、来場者の皆さんも足を止めて熱心に見入る姿が見受けられました。

［ししゅうフレーム］

［芸術的な粘土かいじゅう］

昨今、農業分野と福祉分野の連携に注目が集まる中、農大では、今回の取り組みを契機として、同じ美合町地内にある特別支援学校との連携を一層強化していきたいと考えています。　　（副校長　堤　公生）

［高等部1年生による"みあいのしめ縄"］

農大周辺の風景

本校を二分するように、馬頭道（県道328号本郷美合停車場線）が南北に走っています。朝夕は通勤の車で少々渋滞しますが日中は空いており、のんびりとした雰囲気さえ漂っています。

先日、学校敷地から外部へはみ出している雑木処理のため、馬頭道を北から南へ歩いていた時でした。これまで、車からでは見落としていた道沿いにある石標に気が付きました。

［馬頭道沿い東側にある石標］

本校は1910年（明治43年）に農商務省が設立した愛知種馬所から、追進農場等を経て現在に至っております。

12月とは思えぬ暖かな日差しの中で、100年以上前の馬頭道は如何様であったのか。歴史マニアでなくとも、いろいろ想像したくなります。　　（副校長　堤　公生）

［馬頭道から見た追進館］

農大からのお知らせ

◇令和2年度入学者選抜試験◇

一般入学二次試験

養豚・養鶏専攻で募集します。

・出願期間：令和２年１月10日(金)から
　　令和２年１月27日(月)まで
・募集人員：若干名
・入学願書
　入学願書の「希望課程専攻名」については、第１希望欄に「畜産課程」、「養豚・養鶏専攻」と記載して、第２希望から第４希望は空欄としてください。第１希望欄に他の専攻を記載した願書は無効となりますので、注意してください。その他、出願手続き等詳細については「令和２年度入学生　愛知県立農業大学校農学科一般入学学生募集要項」に従い出願してください。
・試 験 日：令和２年２月14日(金)
・合格発表：令和２年２月26日(水)
・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
　　面接試験
・受験会場：農業大学校

詳細については、本校ホームページを御覧ください。

・問合せ先：学務科(鈴木)0564-51-1602

◇令和元年度　経営管理研修◇

－パソコン農業簿記活用(財務諸表の活用）－

農業簿記の基礎知識のある方が、パソコンを活用した最新農業簿記ソフトの利用方法について学び、農業経営の向上に役立てます。

・開催日時：令和２年１月23日(木)
　　9時00分～16時30分
・開催場所:農業大学校
・対 象 者
　農業簿記の記帳経験があり、パソコンの基本操作ができる、また、できれば、売り立て書、発注書等が持参できる方。
・定　　員：農業者20名
・研修内容
　講義・実習
　　「パソコン農業簿記の活用方法」、「仕訳の入力」、「記帳結果の確認」、「減価償却」、「棚卸」、「決算書」
・参 加 費：無料
・申込方法
　御住所を管轄する農林水産事務所農業改良普及課にお申込みいただくか、往復はがきで、愛知県立農業大学校までお申込みください。

※詳細はホームページを御覧ください。

・問合せ先：担い手支援科（福井）
　　電話0564-51-1034

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和２年１月の生産物実習販売についてお知らせします。

・販売日：１月８日、15日、22日、29日
　　（祝日を除く毎週水曜日です。）
・時　間：午後３時から
・場　所：農業大学校体育館
　※なお、袋入り堆肥の販売は、第２機械庫前で牛ふん堆肥と鶏糞堆肥に限ります。
・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

校内でCSF(豚コレラ)防疫対策実施中

農大では、ＣＳＦ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

○畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
○農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
○主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
○関係車両等の消毒の徹底
　　（車両消毒槽、動力噴霧器）
○その他、諸防疫対策を実施